

一人ひとりの力を引き出す題材と授業をどうつくっていくか

甲州市立勝沼小学校 古屋 ゆか

1 はじめに

低学年には「今日の図工は、何をするの？早くつくりたいな」「図工、大好き」と、図工の時間を楽しみにしている子どもたちが多く、作品づくりに向かっている時の子どもたちの様子は、夢中になって手を動かしたり、友だちと作品を見せ合ったりと、とても楽しそうである。時々、子どもが手を止めてじっと作品を見つめ、考えている姿を見ると、「こうしたい」「もっと工夫できないかな」と真剣に作品と向き合い、集中していることが伝わってきて、私もとても嬉しくなる。中には「図工は嫌い」「やりたいことが見つからない」という子もいるが、その子にとって興味をもてる題材と出会い、納得いくまで取り組んだり、友だちや教師にほめられて自分のよさに気付いたりすることで、少しずつ図工の楽しさを感じられるようになってくると思う。

その一方で、“子どもたちの体験の少なさ”も感じている。例えば砂や水を使って造形遊びをしたとき、以前ではあっという間に砂場に大きな山や谷ができ、友だちと協力しながら川や道や建物をどんどんつなげ、子どもたちは泥だらけになりながら全身で活動を楽しんでいた。しかし最近では入学前に砂遊びを思い切りしたことがない子もいて、まず砂や水に触れて慣れさせることに時間を費やしてからでないと、活動がつまらないもので終わってしまう。また家庭で色々な道具に触れる機会も減っていて、学校でしか使ったことがない物も多い。手先の器用さについても細かい作業ができなかったりして、以前より下がっていると思うことがある。子どもたちの経験の少なさを、図工の学習で作品づくりに向き合いながら補い、活動の幅を広げさせることで、高学年になっても図工が好きで、自分なりの作品づくりに取り組める子を育てていきたいと感じている。

2 題材と授業について

この実践を行うにあたり、以下の点について特に意識して題材と授業づくりに取り組んだ。
題材について

- ・子どもたち一人ひとりが興味をもち、その興味を持続させることができる題材であること
- ・一人ひとりが自分らしさを発揮できるような題材であること
- ・多少の抵抗感もあり、試行錯誤しながらつくっていく題材であること

授業について

- ・自分なりの表現を思い切り楽しめるような、子どもと題材の出会いがあること
- ・身近な材料を生かしながら、材料経験を広げられるような活動をする
- ・友だちとの関わりをもてるような鑑賞の時間「図工たんけん」を行うこと

第2学年 図画工作科学習指導案

指導者 東雲小学校 古屋 ゆか

1 題材名 「ふわふわ〇〇さん」 A表現(2) B鑑賞(1)

2 題材について

本学級の子どもたちは、材料や用具との出会いを素直に喜び、楽しみながら造形活動を行っている。例えば造形遊び「大きなかみで」で用いた新聞紙は、その後も子どもたちにとって楽しい材料のひとつになっているなど、一度経験した材料や用具は、また進んで使おうとする様子が見られる。好奇心旺盛なこの時期に、自ら手を働かせることによって、材料の感覚を十分に味わい作品をつくることを楽しむ活動はとても大切だと考える。

本題材は、ポリ袋の中に柔らかくした新聞紙を入れてふくらませ、ひもでしばることによって立体的な形の生き物“〇〇さん”をつくるという内容である。ポリ袋にくしゃくしゃにした新聞紙を入れることによって感じられる柔らかさは、子どもたちに新鮮な驚きを与えてくれるであろう。また形を変えるために行うしばるという行為そのものや、それにより立体感を出すことは、子どもにとっては多少の困難さを伴うものであるため、作品に取り組む過程で互いに教え合ったり、助け合ったりしながら活動する姿も期待できる。

指導にあたっては、まず新聞をいくつかに裂き、柔らかさが出るように、ゆっくりもむ時間をとる。次に、新聞紙を適度にポリ袋に入れ、そのフワフワした心地よさを味わうようにする。それから袋をビニタイなどで結んだり、ひもでしばったりしながら形を変え、その形からつくりたい生き物のイメージをもたせるようにしたい。自分が作りたいものに近づけるためにはどのように工夫すればよいかわからない子どもや、しばり方などでつまずいている子どもについては、一人ひとりていねいに指導するとともに、子ども同士で交流し合いながら活動させる。また活動中でも活動後でも、子どもたちがお互いの作品を認め合ったり、喜び合ったりできるように「図工たんけん」を行なう。更に、それぞれの作品のよさが分かるような展示方法を工夫させ、鑑賞し合えるようにしたい。

3 児童の実態

男子17名、女子17名、計34名の学級。明るく元気で、図工を楽しみにしている子が多く、家庭での材料集めも楽しく行っている。全体的に見て男子は大きな作品をつくることや恐竜などを描くことが好きで、女子は細かい部分にこだわって取り組もうとしたり、可愛い動物やキャラクターを描きたがる傾向がある。休み時間には、自由帳に絵を描いて過ごすことが好きという子もいて、絵で表現することへの抵抗は少ないようだ。一方立体に表す活動では、なかなか取りかかれなかったりする子も多いが、実際に手を動かし、友だちの作品を見合ったりする中で、だんだんと自分のつくりたいものを表現するようになっていく。

手先の器用さについての個人差は大きく、特に「しばる」「結ぶ」ことについて、経験が少ないのか、あまりできていない子が多いように感じている。1年生から縄跳びを束ねることをしているものの未だに時間が掛かってしまう子がいたり、蝶々結びができなかったり、固結びが思った場所につくれなかったりする子がかなりいる。楽しみながらしばったり、結んだりす

る活動を行って、経験を増やしたい。

鑑賞については、これまで主に友だちの作品を見合う活動を行ってきた。「図工たんけん」として、制作途中やできあがった作品のよさや好きなどところなどを見つれたり、友だちにつきり方や工夫などを聞いたりして、自分の作品にも生かしている。はじめは友だちに話し掛けることができず、黙って作品を見て歩く子も多かったが、徐々に自分から友だちに感想を言ったり、教えてもらったりする子が増えてきている。

4 題材の目標

- ポリ袋をふくらませたりしばったりして立体的に変形させ、イメージを広げて楽しい生き物をつくる。

5 題材の評価規準

観 点	〔A表現（2） 及び B鑑賞（1）〕			
	ア 造形への関心・ 意欲・態度	イ 発想や構想の 能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
盛 り 込 み の 事 項	〔表現〕 表したいこと表すこ とに関心を持ち、思 いのままに取り組も うとしている。 〔鑑賞〕 自分たちの作品や身 近な材料などの面白 さを思いのままに楽 しもうとしている。	感じたことや想像し たことから、表した いことを見付けた り、形や色などに ついて考えたりして いる。	手や体全体を働かせ ながら、材料や用具 を使うとともに、自 分の表したいことを 工夫して表してい る。	感じたことを話した り、聞いたりしなが ら、形や色、表し方 の面白さ、材料の感 じなどに気付いてい る。
題 材 の 評 価 規 準	〔表現〕 袋を使って、楽しい 生き物を立体的につ くることを楽しもう をしている。 〔鑑賞〕 好きな形や色、使っ てみたい材料などに 関心をもっている。	つくり方を考えた り、つくりながら思 いついたことをふく らませている。	表したいことに合わ せて材料や用具を選 んだり、試したりし て思いのままにつく っている。	自他の作品の形や 色、工夫などについ て、感じたことを話 したり聞いたりしな がら、そのよさや面 白さを感じている。
学 習 活 動 の 評 お	①袋を使って、楽し い生き物を立体的に つくることを楽しも うとしている。 ②好きな形や色、材 料などに関心をも	①袋を変形させなが ら、つくりたいもの を思い付いている。	①ひもやビニタイな どのしばり方や結び 方を工夫している。	①形や色、つくり方 の工夫などについて 話したり聞いたりし ながら、よさや面白 さを感じている。

価値規準	ち, 試そうとしたり, 友だちの作品から得たことを生かそうとしている。		
------	-------------------------------------	--	--

6 指導と評価の計画 (全3時間)

時間	学習活動	主な評価規準と方法◇・支援◆
1 (本時)	<p>○新聞を袋に入れ, 手で摘んだりひもでしばったりして, つくりたいもののイメージをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の前半「もみもみ・フワフワ・ぎゅっぎゅっ」に沿って活動する。 ・新聞紙をもみ, 柔らかくする。 (もみもみ) ・袋の中にもんだ新聞紙を入れ, ふわふわとした感じを確かめる。(フワフワ) ・ひもやビニタイなどを使ってしばり, 袋の形を変える。(ぎゅっぎゅっ) ・しばることで変わる形から, 想像を広げる。 <p>○学習課題を知り, 生き物○○さんについてイメージをもち, つくりたいものを考える。</p>	<p>◇ア① [発言・行動観察]</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆硬い部分が残らないように揉ませるが, 時間をかけすぎないようにする。 ◆新聞紙を丸めたままでなく少し広げさせ, 柔らかさが出る程度に入れさせる。 ◆後でしばり直すことを考え, あまりきつくしなくてよいことを知らせる。 ◆摘んだりしばったりする場所を変えることによって変化する形を楽しませる。 <p>◇イ① [発言・行動観察]</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆つくり方や使う材料などについて, 見通しがもてるように, 簡単にポイントを示す。
1.5	<p>○しばる場所やしばり方を変えることでできる形の違いに気を付けながら, 工夫して表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形を変えた袋から, つくりたいものについてイメージを膨らませる。 (どこにすんでる? どんな生きもの?) ・絵を描いたり, 飾りをつけたりして, つくりたい生き物をつくる。 	<p>◇ア② イ① ウ① [発言・行動観察]</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆しばる箇所やしばり方により大きさが変わり, 全体の感じが変わることに気付かせる。 ◆新聞紙の寄せ方, しばり方に注意してつくらせる。

		◆紙を裂く場合には、紙の目や袋に入れたときのボリューム感に気を付けさせる。
0.5	○できた作品に触れながら、自分や友人の作品のよさや面白さを感じて伝え合う。 ・名前を付けたり、友だちと見せ合ったりして、互いの工夫やよさなどを話したり聞いたりする。 ・飾り方を工夫して、飾る。	◇エ① [発言・行動観察, カード] ◆考えがまとまらない子には、話を聞き取りながらカードに書かせたり、教師と一緒に、友だちに話したりする。

7 材料・用具

〈子ども〉ポリ袋，新聞紙，飾り（広告紙，包装紙，布など），ひも類（リボン，毛糸，モールなど），はさみ，セロハンテープ など

〈教師〉ポリ袋，画用紙，色画用紙，新聞紙，ビニタイ，スズランテープ，紙テープ，紙ひも，リボン，輪ゴム，ビニールテープ，ガムテープ，両面テープ，科学接着剤，ペン など


8 本時の学習

(1) 日時 2013年2月6日(水) 5校時(2:00~2:45)

(2) 場所 東雲小学校 2年教室(2階)

(3) ねらい ○新聞を袋に入れ、手で摘んだりひもでしばったりして、つくりたいもののイメージをもつ。

(4) 本時の展開と授業の様子

時間	学習活動と内容	教師の支援	評価
25分	1 本時の活動について知る。 先生のところへ、不思議なメッセージ(①もみもみ・②ふわふわ・③ぎゅっぎゅっ →)が届いたよ。一体何がおきるのか、一緒にやってみよう。 	・メッセージは一度に全部提示するのではなく、教室に隠しておき、①から順に知らせていく。 ・4つの力(「たのしくやろう」「かんがえよう」「いろいろやってみよう」「たのしくみよう」)を提示し、今日は特に「たのしくやろう」の力を使うことを伝える。	

2 メッセージの前半に沿って、活動する。

「次はどんなメッセージが出てくるんだろう」

「新聞がどうなるのかな」

①もみもみ

- ・新聞紙2日分程度をもみ、柔らかくする。

「どんどん柔らかくなっちゃう」

「くしゃくしゃにしてギュッと丸めてから広げるといいよ」

「手が黒くなってきたよ」

②ふわふわ

- ・ポリ袋（45L）の中にもんだ新聞紙を入れ、ふわふわとした感じを確かめる。

「かるくてふわふわするよ」

「だっこすると気持ちいい」



③ぎゅっぎゅっ

- ・手で摘んだり、ひもやビニタイなどを使ってしばったりして、袋の形を変える。
- ・しばることで変わる形から、想像を広げる。

「○○みたいに見えてきた」

「違う所をしばってみよう」

○次はどんな言葉なのか予想させながら、材料に触れる時間を多く取って活動できるようにする。

- ・新聞紙は1枚ずつにしてからもませる。



- ・袋に入れるときは、新聞紙を丸めたままでなく少し広げさせる。
- ・詰めすぎると柔らかさが出ないので、適度に入れさせ、ふわふわした感じを確かめさせる。
- ・袋から空気を抜かせ、口はゴムで留めさせる。



- ・後でしばり直すことを考え、あまりきつくしなくてよいことを知らせる。
- ・摘んだりしばったりする場所を変えることによって変化する形を楽しませる。
- ・みつけた形の中に、生き物らしい形がないか意識させる。

イ①
〔発言・行動観察〕



13分

3 学習課題を知り，生き物〇〇さんについてイメージをもち，つくりたいものを考える。

〇より楽しく活動できるように気持ちを高めさせる。

**もみもみ・ふわふわ・ぎゅっぎゅっ
→ ふわふわ〇〇さんたん生**

「わたしは，〇〇さんにしたいな」
「〇〇さんにするには，新聞をもっと増やさないと」
「早くつくりたいな」
「どのひもを使おうかな」

- ・新聞紙の量を調節したり，しばり方を考えたりする必要があることを確認する。
- ・袋のふくらませ方，しばり方などについて，分からないことがあったら教科書を見たり，友だちに聞いたりしてもいいことを知らせる。



4 自分なりのイメージをもちながら作品づくりをすすめる。

〇自分のイメージに近づけるように，どんな〇〇さんなのか考えながらすすめさせる。

ア①表
〔発言・行動観察〕

「〇〇さんに見えるかな」
「他の袋をつなげたらどうかな」
「友だちがしばるのを手伝おう」

- ・「図工たんけん」は自由に行かせ，感想を述べ合ったり，作品づくりの参考にさせたりする。

7分	<p>5 本時のふりかえりをし、次時の予定や持ち物を確認する。</p> <p>「私は〇〇をつくりたいです」 「新聞を入れる量を工夫しよう」 「〇〇を持ってこよう」</p> <p>6 片付けをする。</p> <p>・自分の使った物だけでなく、教室の床の掃除など、協力して片付けをする。</p> <p>「きれいに片付けるよ」 「一緒にやろう」 「これはまだ使えそう」</p>	<p>○どんな〇〇さんをつくりたいかや、気付いたことなどを発表させ、次時の活動に対する見通しが持てるようにさせる。</p> <p>・活動の様子をほめ、次時の活動が楽しみになるようにする。</p> <p>○協力して片付けを進めさせる。</p> <p>・友だちの手助けをしている子をほめ、全体に広がるようにする。</p> <p>・材料が無駄にならないように、使えそうなものは、なるべくきれいに集めさせる。</p>
----	---	--

(5) 板書計画

たのしく やろう	かんがえ よう	いろいろ やってみよう	たのしく みよう	2:00 やってみよう 2:25 かだいはっぴよう さあ つくろう 2:38 まとめ かたづけ
もみもみ・ふわふわ・ぎゅっぎゅっ → ふわふわ〇〇さんたん生				
もみもみ ・大きさ ・新聞をさくむき ・はじをやわらかく	ふわふわ ・ひろげて 入れる ・入れすぎない ・空気をぬく	ぎゅっぎゅっ ・しばる 場しょ ・しばり方	〇〇さん どこにすんでいる？ どんな生きもの？	

9 ワークシート（3時間目）

ふわふわ ふくろうさん

名前（ ）

★わたしのふくろうさんは、これ！！

--

★4つの力をつかえましたか。

たのしくやろう	かんがえよう	いろいろやってみよう	たのしくみよう

★ふくろうさんぎょうかいしましょう。

★くろうしたことやびんばったことを書きましょう。

成果と課題

－題材について－

- ・この時期の子どもは男女問わずぬいぐるみが好きで家にもたくさんある子も多く、自分でも“ぬいぐるみのように柔らかいもの”がつかれることに喜んでいて。
- ・子どもにとっては“生き物”と捉える範囲は広く、動物だけではなく雪だるまや架空の生き物をつくる子もいて、想像を広げやすい題材だった。
- ・これまであまり経験したことのない、縛って形を変えることや縛って繋ぐことは難しかったが、作りながら経験することができ、最後まで楽しく取り組むことができる題材だった。

—授業について—

【題材との出会い】

- ・「ふわふわ」「もみもみ」「ぎゅっぎゅっ」というキーワードを書いたカードを順に出していくことにより、「次は何をするのかな」と興味をもちながら活動に入ることができた。
- ・まず新聞をもみ、実際に袋につめて柔らかさを楽しみ、それから縛って形を変えてみることに、つくってみたい「ふわふわ〇〇さん」を見つけることができた。

【材料の経験】

- ・2年生では主に紙類を扱ってきたが、これまでは切ったり貼り付けたりすることが多く新聞紙をもんで詰める使い方はしたことがなかった。大きなポリ袋に詰めることで予想が立てにくく、どの程度の量や柔らかさが必要か実際にやってみながら適量を見つけていた。「新聞を入れすぎて縛れない。減らさなきゃ」「中にもっと入れないと顔ができないよ」と何度もやり直しをしながらつくることができた。
- ・初めは白いポリ袋を使い、つくりたい〇〇さんが決まったところで、必要な子には色のついた物を選ばせた。しかし、色を変えたい子の中にはカラーの紙ガムテープで全体を覆ってしまった子もいて、素材の柔らかさが落ちてしまい、「何か硬くなっちゃった」と残念がっていた。
- ・縛る材料として、初めは主にスズランテープを使っていたが、ポリ袋を縛ると滑って扱いにくいことが分かり、子どもたちは縛る場所を変えたり、「ギュッと引っ張ってから縛らない」と力を入れて巻いたりしていた。モールも使用したが、ある程度の長さがないと固定が難しく、ひもで固定した上に巻いたりして、飾りのように使う子が多かった。

【友だちとの関わりから感じた楽しさ】

- ・「図工たんけん」として、困ったことがあった時やヒントが欲しい時も自由に友だちの作品を見に行き、「ここ、どうすればいいの」と質問して教えてもらったりした。縛る時に作品を支えたり、ひもを引っ張ったりして、友だちと手助けする姿もみられた。
- ・友だちに伝えるため自分のおもいを改めて言葉にすることになり、聞き手である友だちにとって発想が広がるだけでなく、話す本人にとっても「あっ」と気付いたり、おもいを深めていったりすることができた。
- ・自ら友だちに「どう？」と作品を見せに行く子がいるなど、作品をきっかけに進んでコミュニケーションを図ろうとする姿も見られた。友だちと関わり、作品をほめてもらうことで自信をもつことができ、安心して自分の思いを追求することができた。

